



こども ^{れき し} 歴史 **なぜなに?** ^{そう だん しつ} 相談室



～ お城 について ～

Q1 広島県内には1,300か所以上のお城がある、と聞きました。お城というと、広島城や福山城の、写真のような建物を指すのではないのですか。

写真の建物は「天守閣」とよばれる城の中心となる建物です。「天守閣」は、見た目も立派で、城のシンボリックな建物なので、「城」＝「天守閣」というイメージになるのだと思います。

しかし、「天守閣」は、戦国時代の終わりの織田信長や豊臣秀吉の頃になってつくられ始めたもので、それ以前の城にはこうした大規模な建物はありませんでした。そのため、天守閣をもつ城は「近世城郭」とよばれたりします。

一方、広島県内にある1,300か所以上の城のほとんどは、それよりも前の、鎌倉時代から室町時代に、山を利用し、土を盛ったり削ったりして作られた「中世山城」というもので、工作物は柵や小規模な建物に限られるようです。

ところで、城は何のために作られたのでしょうか。

鎌倉時代・室町時代の各地の領主や村は、戦争の際の防御施設や領地支配の拠点などとして、自分たちの住む屋敷の裏山や領地のなかの特に大切な場所に城を築いたようです。そして、城の作り方が大きく変化した近世城郭にも、中世山城が担った城の役割は引き継がれています。

一口に城といっても、時代により、さまざまな姿があるようですね。



福山城天守閣（復元）

Q2 広島城や福山城の塀に、○や△や□の穴があるのは、なぜですか。

お城は、「戦のための施設」でもある、とさきほども書きましたが、塀にある穴は、このことと関係があります。

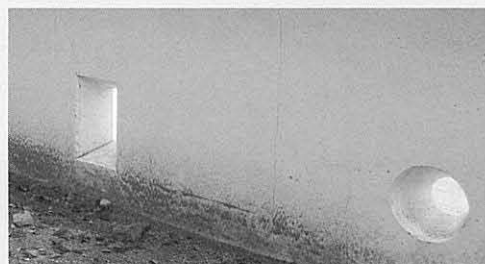
これらの穴は「狭間」と呼ばれ、この穴から鉄砲や矢を放ち、攻めてきた敵を攻撃するためのものです。つまり、敵から城を守るための穴、なのです。

よく観察してみると、穴は奥側にむけて小さく、手前側にむけて大きくなっています（右下の写真）。なぜだかわかりますか？

中から外をねらう時は、手前側の穴が大きいと、いろんな方向にねらいを定めることができますし、奥側の穴が小さくなっていると、外から攻撃された時でも城の中に相手の鉄砲の弾や矢が入りにくいですよね。

このように、城の中には、さまざまな戦いに備えた仕掛けがあります。そういったものを探しながら、お城を見学すると、楽しみも広がるのではないのでしょうか。

（主任学芸員 久下 実）



写真とともに福山城（復元）